学びの充実・改善のヒント

「かながわの学びの充実・改善のための重点事項」の各項目を踏まえ、「学びの充実・改善のヒント」として取組事例をとりまとめ、示しています。

1　子どもたちの学びに対する意欲の向上

（１）子どもの活躍できる場面を意図的につくり、見取り、評価する事例

先生の学校では、どのような工夫をしたり、意識をしたりしていますか？

私の学校では、子どもが達成感や自己肯定感を感じることができるよう、学校生活のあらゆる場面で、一人ひとりに活躍できるような機会や場面を意図的につくり、見取りと評価を丁寧に繰り返しています。

見取りや評価を丁寧に繰り返すときに心がけていることはありますか？

子どものがんばりや友達への言葉がけなどに対して、できるだけその場でタイミングよく声をかけて認めることを教職員で共通理解し、取り組んでいます。例えば、子どもが探求する場面では、つまずきそうなところを予測しておき、そのつまずきを試行錯誤しながら取り組んでいるときには、調べ方、探し方のよいところをその場でほめるようにしています。前向きな評価をすることで、子ども同士も認め合い、安心して学校生活を過ごすことができる、あたたかい雰囲気をつくることにつながっていると考えています。

（２）「教科を好きになる授業づくり」についての事例

教科を好きになるために工夫していることはありますか？

教科を好きになるためには、「わかる」「できる」授業を心がけることが大切だと考えています。授業では、インクルーシブ教育の視点を取り入れ、全ての子どもが楽しく、わかる、できるようにする工夫をしています。その一つの取組として、４色マグネット（青…自力で解決できる、黄…何とか頑張れそう、赤…難しい、緑…質問）を机に置き、子どもの学習への取組状況や理解の様子を教員に伝えられるようにしています。

「分からない」と自分からなかなか伝えられない子どもも、この４色マグネットを使って自分の状況を教員に伝えているんですね。

教員はマグネットの色の状況を見て、クラスの子どもの学習状況を把握したり、支援を行ったりしています。例えば、赤マグネットが多ければ、全体に再度説明をしたり、発問を変えたりしています。また、青マグネットが多ければ、赤マグネットや緑マグネットを置いている子どもを中心に支援を行っています。マグネットの色は途中で変えてもよいので、子ども自身が自分の学びをメタ認知することにもつながっています。

（３）すべての子どもが安心して自分の考えを発言できる手立ての事例

私の学校では、授業改善が子どもの自己肯定感を高めることにつながると考えています。

どのようにして授業改善に取り組んでいるのですか？

元校長先生に教育アドバイザーとして学校に来ていただき、一貫性をもって、授業改善に取り組んでいます。

どのような授業改善に取り組んでいますか？

話し合い活動の中で、子ども同士が受容と称賛を繰り返して行えるようにし、子どもが安心して自分の考えを発言できるような授業づくりを行っています。教員全員で、挙手をするときの「同じです」「付け足しです」等を表す「ハンドサイン」や、子ども同士の「相互指名」、「聴き方や発言の仕方」の例を提示するなどの手立てを行い、学校全体で粘り強く取り組んでいます。この取組が子どもにとって安心できる話し合い活動につながり、自己肯定感を高めていると考えています。

（４）子どもの「学ぶ意欲」が高まる学習環境づくりの事例

子どもの「学ぶ意欲」を高めるためにどのような工夫をしていますか？

私の学校では、子どもが授業を楽しいと思えることを大切にして「学ぶ意欲」を高めています。

具体的にはどのような工夫ですか？

例えば、最近のスポーツニュースが書かれた新聞記事２紙を読み比べるなど、実生活に関係している「取り組んでみようかな」と思える課題を提示したり、ＩＣＴを活用した、個に応じた教材を準備したりするようにしています。
そのような提示や準備は、子どもの「学ぶ意欲」の向上につながると考えています。
また、「思い合い、学び合い」を合言葉として活動しながら、「あたたかい話し方、やさしい聴き方」の例を各教室に掲示して、子ども同士の話し合いを大事にしています。互いに認め合う関係性を築くことは、「学ぶ意欲」の向上につながると考えます。他にも、ピクトグラム、取り組む時間のわかるタイマーなどを活用し、学習環境づくりをすることを通して「学ぶ意欲」を高めるようにしています。

２　自分の考えを文章等で表現する力の向上

（１）国語で身に付けた表現力を他教科で活用する事例

子どもが、自分の考えを表現する力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

私の学校では、国語の授業で身に付けた力を、教科を横断した学びの場面で活用しています。

どのような学びの場面で活用するのですか？

例えば、国語で学んだ「手紙の書き方」を活用して、生活科や総合的な学習の時間でお世話になった方への「お礼状」を書くなど、実用的に使うことを通して、目的や相手を考えて言葉を使う場面を設定しています。

（２）自分の言葉でまとめる取組の事例

子どもが、自分の言葉で考えをまとめる力をつけるために、どのような工夫をしていますか？

考えるための時間を十分に設けることや、「考えるための技法※」を活用することが必要だと考えています。例えば、ウェビングなどを用いて、思考を可視化するようにしています。比較する、分類する、関連付ける、順序付けるなど考える際の技法を使い、自分の考えを整理できる時間を大切にしています。

※考えるための技法…学習指導要領解説　総合的な学習の時間編
（小学校 pp. 82～86　中学校 pp. 79～83）

具体的には、どのように授業を行っているのですか？

【理科】の「予想」の場面では、実験に取り組む前に、実験にあたっての予想や計画を考える時間を設け、ワークシートで可視化するようにしています。これにより、子どもが見通しをもち、より主体的に実験に取り組むことができるようになったと感じています。また、実験が思うようにいかなかった場合も、もう一度実験の計画や方法の見直しをさせ、何が原因だったのかを考えさせるようにしています。

実験の考察では、どのようなことを大切にしていますか？

実験前や実験中に時間を取って、考えたことについて改めて振り返らせると同時に、実験の結果を「考えるための技法」を用いて、思考のまとめをさせます。何を確かめるための実験だったのか、実験によって何が分かったのかなどを、他者と共有できるように文章等で説明させます。相手に伝わるようなまとめ方を工夫していく中で、徐々に自分の言葉で自分の考えを形成できると考えます。

（３）自分の考えを文章で表現する事例

子どもが自分の考えを文章で表現できるようにするために、どのような工夫をしていますか？

私の学校では、まず、子どもの語彙を豊かにすることを意識しています。その上で、自分の考えを表現する活動を意図的に増やしています。

どうやって語彙を豊かにするのですか？

様々な教科の学習の中で、分からない言葉が出てきたときはすぐに辞書で調べることを日常的に行うとともに、自分の「語彙手帳」に調べた言葉を書いたり、同じ意味の言葉を「語彙手帳」に集め、他の教科でも活用するようにしています。また、読書活動も推進しており、市の図書館の配本サービスを活用したり、家庭学習の中に読書を位置付けて習慣化させたりしています。

国語の授業ではどのようなことを心がけていますか？

【国語】では、自分の考えを明確にし、書き表し方を工夫する活動を取り入れた授業づくりを行っています。そのために、何をどのように書くのか、見通しをもたせ、書くことを通して身に付けさせたい資質・能力を子どもに分かる言葉で示しています。子どもの実態に合わせて、書き出しや例文、型を示すなどの指導、支援もしています。考えの形成については、例えば、一人で考えるだけではなく、学習課題について人と相談したくなったタイミングで、ペアやグループで話し合うことを通して、考えを形成しています。そして、書いた文章について推敲する時間も計画しておきます。推敲する際にも、例えば、構成や展開、因果関係などの自分の文章を推敲するポイントを示しています。

算数の授業ではどうですか？

【算数】では、考えを表現し、伝え合う活動を意図的に設けています。図、言葉、式などを用いて考えたり、文章で表現したりするなどの学習活動を積極的に取り入れています。自分の考えを伝えるだけではなく、友達の考えと比較して新たな考えを導き出したり、友達の考えを自分の言葉で説明させています。考えを伝える場面では、例えば、用語や記号を使って、根拠や筋道を明確にしながら説明することを意識させています。

算数における、自分の考えを表現する学習で、具体的に心がけていることはどのようなことですか？

日常生活に即した学習課題を設定するようにしています。長方形の美しさを考える学習課題では、身近にあるテレビやノート、机など美しいと思う長方形の辺の長さを調べ、子ども同士で共有させました。その後、短い辺の長さに対する長い辺の長さの割合についての共通点等を見出し、自分の考えを図やグラフ、記号等を用いながら、自分の言葉で文章等にまとめる学習を行いました。まとめた後は、子ども同士で再び共有し、お互いの感想を言い合いました。

（４）自分の考えがうまく伝わるように文章や話の組立てを工夫している事例

発表したり、書いたりする言語活動はしているのですが、どうしたら、子どもの考えがさらにうまく表現できるようになりますか？

私の学校では、ＩＣＴを活用して話の構成を考えさせています。文書作成ソフトを使うと、文を書き加えたりコピーしたりすることが簡単にできます。そのよさを生かしています。
例えば、発表や作文などの学習では、自分がいちばん伝えたいことをどうしたらうまく相手に届くかを考えさせています。自分のいちばん伝えたいことを話や文章のはじめにもってくるか、それとも、最後にもってくるのか。その構成を考える過程で、自分の伝えたいことがよりはっきりしてきます。また、自分の伝えたいことがより明確になる過程で、一文の長さに自分で気づいたり、分かりにくい表現に気づいたりします。

なるほど。文書作成ソフトは、訂正するときに書き直しがしやすいですね。

そうです。文のまとまりをコピーしたり、文に言葉を付け加えたり、削除したりすることが、短時間で行えるので、発表の構成メモや作文を書く時には、有効だと思います。

３　校内研修の充実

（１）学習評価について共通理解していくための研修事例

学習評価の校内研修は、どのような取組を行っていますか？

まず、年度はじめに学習評価に関する研修会を行っています。その際、学習指導案や授業の様子を撮影した映像をもとにして、具体的な学習指導及び評価の場面について、研修を行っています。教員全員で議論しながら、指導と評価について共通理解を図っています。
さらに、学習評価について共通理解を深めるために、研修会を設定したり、職員会議等を利用したりして、他教科でも生かせそうな取組を紹介する時間を設けるようにしています。

実際の学習指導では、どのように取り組んでいますか？

学習指導については、全教員が、年度内で１人１回以上必ず研究授業を行います。参観では、一人の子どもの取組を複数の教員で評価し、授業後には、学習評価を中心にして全教員で協議をします。「指導と評価の一体化」の観点から、校内研修をするように努めています。

（２）「話す・聞く」力を身に付けることに重点をおいた研修事例

どのような取組を行っていますか？

「話す・聞く」力の育成を校内研究の重点事項に位置づけています。１学期には全教員が国語の研究授業を行いました。研究会等でその成果と課題を踏まえ、２学期は他教科の授業に広げて実践をしています。例えば、今年度は、１学期の課題として、「話の中心を明確にして話す」「話の中心を捉えながら聞く」が挙がりました。事柄、理由、事例の順序を意識して、２学期は学習しています。

話し合う活動についてはどのようなことを意識させていますか？

自分と相手の考えとの共通点・相違点を意識させています。その際、まずは自分の考えたことや解決の道すじをノートに整理（Ｐ.33）した後、話し合う活動を行っています。相手の考えを聞きながら、自分の考えを広げたり、まとめたりするようにしています。

授業以外にも「話す・聞く」力の育成に取り組んでいることはありますか？

例えば、朝の時間を利用してミニ討論会やミニスピーチを行う等、様々な場面で話す活動を取り入れています。話し合い活動において、丁寧な話し方や聴き方を繰り返し指導することで、あたたかい雰囲気で、お互いを認め合い、失敗を気持ちよく受け入れられる環境（支持的風土）を作ることができています。

（３）全国学力・学習状況調査の結果を活用した研修事例

全国学力・学習状況調査の結果を、どのように活用していますか？

まず、調査問題や質問紙の内容項目の確認・共有から始めています。調査対象学年の担任だけではなく、全教職員で共有したのちに、協議を行い、日頃の教育活動に生かしています。今年度は、いくつか挙がった課題の一つに、一定の長さのある文章を読む習慣を身につけるという課題が挙がりました。そのため、全教職員で、日常の授業に新聞を取り入れて、教育活動を行おうと共通理解を図りました。

結果は、どのように共有していますか？

調査問題の解答や質問紙の回答それぞれの解答（回答）率について、全国平均や県平均との差を見ながら自校の子どもの強みや課題を共有します。その際、割合で示される解答（回答）率を「人数」に直すことで、「クラスの中で、このくらいの人数は、このように考えているかもしれない」ということを話しながら結果を共有しています。

共有したことを日常の教育活動に生かしているのですね？

はい。日頃の授業改善につなげるようにしています。分析を通した自校の子どもの強みや課題を全教職員で共有しているので、学校全体で課題解決に向けた手立てを考え、実践することができています。今年度は、長い文章を読むことに加えて、無回答率の結果を踏まえて、子どもが、安心感をもって表現できるようにしています。また、考えをもち、粘り強く取り組めるよう、日頃から意識して教育活動を行うようにしています。校内で課題を共有することで、職員室では、教員同士で授業改善に関する会話をしていることがよくあります。

４　小・中一貫教育の推進

（１）全国学力･学習状況調査の結果を小･中学校が協働して分析する事例

全国学力・学習状況調査の結果を小・中学校が協働して、どのように分析しているのですか？

全国学力・学習状況調査の結果分析を行うために、小・中学校の教員が協働して、検証委員会を設置しています。
小・中で協働して結果を分析することで、自校だけではなく、小学校と中学校それぞれの課題が明確になり、それぞれの課題を共有することができます。９年間を見通して、児童・生徒に必要な力をつけていくために、これからお互いに連携して、どのような取組ができるのかを共有・協議しています。

（２）指導のポイントを共有した連携の事例

小・中学校の連続性を意識した取組はどのようなものですか？

「落ち着きのある授業」「学び合う授業」「確かな学びのある授業」を学びの大きな柱としています。コロナ禍においても、連携した取組を継続できるように小・中学校をオンラインでつなぎ、打合せを行いました。

校内研究等の取組はありますか？

校内研究における授業の相互参観や幼小中合同協議会を行っています。児童・生徒の学習や学校生活の様子について、協議、情報交換等を行っています。

そのような取組は、授業づくり等にどのように生かされていますか？

小・中学校の教員が、お互いについて理解する機会として大変貴重な時間となっており、学びの連続性を意識した授業づくりにもつながっています。そして、小・中学校の教員が、子ども一人ひとりのよさについて話し合うことで、一人ひとりの成長を共有して喜べる人たちが増えることにもつながっています。